

見られる様子(FIAT-LD チェックリストより)	
✓	①心理的負担
3	興味のあることなど、様々な知識を持っているが、教科の理解度確認テストでは合格基準に達しない
8	物語文のように、文字のみ記載されている教材を使用すると教材を見ない、あるいは見ようとしていない
9	資料集などの副読本を読もうとしない、または読みづらそうだ
11	図書館でよく本を借りているようだが、教科書を読むことは嫌がる
13	教科によって、読むスピードや興味の有無に違いがある(教科書を読むのが遅い、読まない、開かないなど)
14	小説や教科書を読むことは嫌がるが、漫画は好んで読む
23	字を読む(黙読・音読)を嫌がる
	長い文章を読むと疲れる

考えられる配慮
クラス全体で指示はするが、本人に読むことを強制しすぎない

以下のチェックリストに1つでも当てはまった場合は、「読みのフローチャート(p.3)」へ進みましょう

見られる様子(FIAT-LD チェックリストより)	
✓	②読むスピード
2	追い読みはスムーズに出来るが、一人で読むと時間がかかる
6	決まった時間内にテストを終了させることができない(読むのが遅いため)
10	教科によって読むスピードが異なっているようだ
	文章の音読に時間がかかる
	早く読めるが、理解していない(黙読・音読)

✓	③読む様子
1	単語または文節の本来区切らないところで区切ってしまうことがクラスメートに比べて多い
5	文末を思い込みや省略して読むことがクラスメートに比べて多い
7	文章の途中で改行すると、途端に読みづらそうだ
16	逐次読みをする(文字を一つ一つ拾って読むこと)
18	文中の同じ行を繰り返し読んでしまう
21	文中に同じ単語が近くにあると、途中で文を読み飛ばして次の同じ単語から続けて読んでしまう

25	文中の漢字を飛ばして読んでいることがある
	指で押さえながら読むと少し読みやすくなる
	文章の読みづらさはあるが、話す時は生き生きと話す

✓	④仮名の誤り
24	「め」と「ぬ」、「わ」と「ね」などの形態的に似ている仮名文字の誤りが多い
	促音「っ」、撥音「ん」、拗音「ゃ」「ゅ」「ょ」「わ」など特殊音節の誤りが多い
	「は」と「わ」と読めず、「は」と読む

✓	⑤漢字の誤り
15	2学年下の漢字の読みが難しい(小学3年生以上)
17	読み方が複数ある漢字を誤りやすい
27	意味が似ている漢字に読み替えていることが多い(例:教師→先生、祝日→休日)
26	形態的に類似した漢字の読み誤りが多い(「雷」を「雪」)

✓	⑥アルファベットの誤り(中学生以上)
19	「b」と「d」、「p」と「q」などの形態的に似ているアルファベットの誤りが多い
20	形態的に類似した単語の読み誤りが多い(「Tuesday」と「Thursday」など)
	アルファベットが覚えきれない

✓	⑦読みの内容理解
4	範読すると内容を十分に理解しているが、黙読や音読では内容理解が不十分な部分がある
6	決まった時間内にテストを終了させることができない(読んでも理解しづらいため)
12	人に教えてもらいながらの作業は得意であるが、教科書や説明書を読みながらの作業は苦手そうである
	文章の要点を正しく読み取ることが難しい決まった時間内にテストを終了させることができない(読んでも理解しづらいため)

読みの支援のフローチャート

項目 A から矢印にしたがってフローチャートを進めていきます。

項目にある手立てで子どもの学習の様子が改善されない場合は、矢印にそって次の項目へ進んでいきます。

(P.〇〇)と書いてある項目には、該当ページに解説があります。

環境調整	
A	<ul style="list-style-type: none"> ・ノイズ(音)の排除 ・周辺物の整理等、刺激を減らす ・座席の変更



クラス全体での工夫(教材の工夫)			クラス全体での工夫(授業の進め方)		
B-1	漢字の読み変換の負担を減らす	配布するプリントを、ルビあり、ルビなしで選べるようにする	C-1	読むときの姿勢・持っている本が安定せず、読みづらい	<ul style="list-style-type: none"> ・座って、本を机に置いて読む(立って読まない) ・読む教材を固定して読む
B-2	文字を読みやすくする	配布するプリントを拡大したものも選べるようにする(B5→A4/B4→A3等に拡大)	C-2	読み方に自信がない、わからない	まず教師が読んでから読ませる



個別支援(個人での工夫)	
D-1	読むべき部分に注目する(P.4へ)
D-2	拡大ルーペを使って、文字を見やすくする
D-3	文や語句のまとまりを認識する(P.5へ)
D-4	挿絵と文章、文の中の単語を一致させて、内容をイメージする手がかりとする



個別支援(個別メニューの作成)	
E	FIAT-LD 一対比較法の実施(別紙)

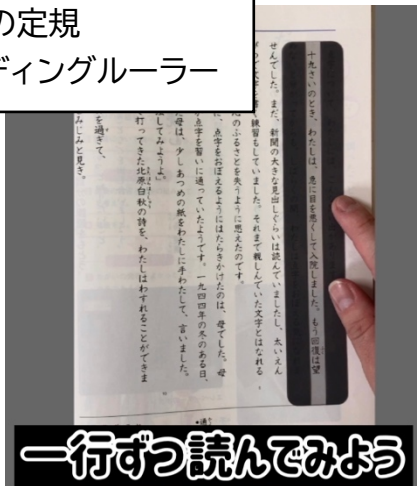


個別支援(読みの代替手段)	
F	音声を聞いて学習する(P.6)

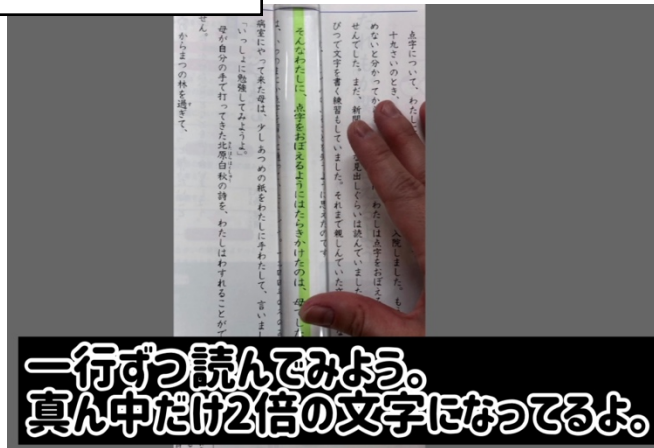
個別支援(個人に合わせた工夫)

D-1/d-8 教科書やプリントなどの文章を読むときは、読むべき部分に注目する

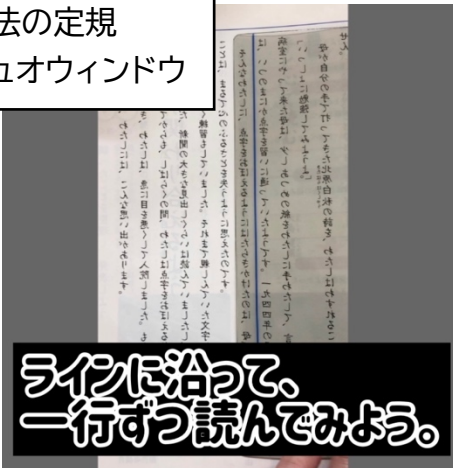
魔法の定規 リーディングルーラー



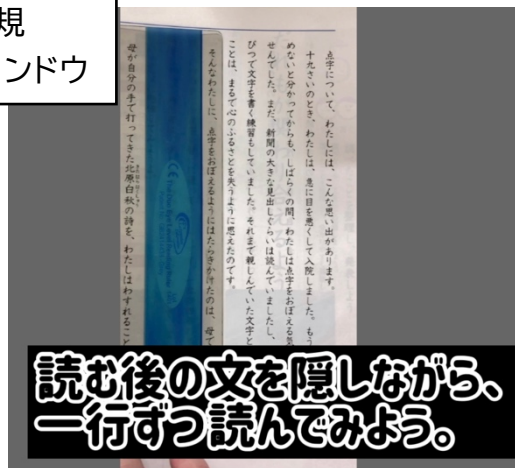
カラーバールーペ



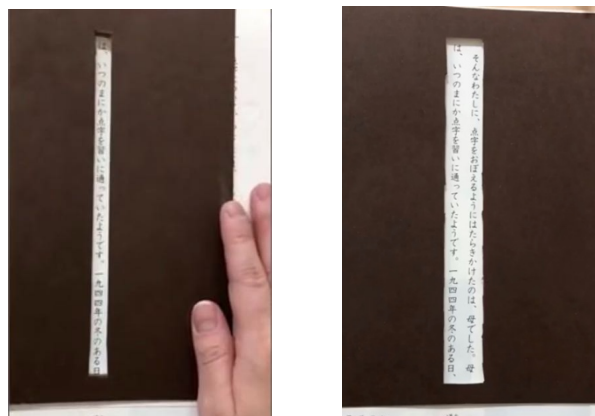
魔法の定規 デュオウィンドウ



魔法の定規 ワイドウィンドウ



画用紙を1行や2行分切り取った 自作のスリット



・補助具を使うことで、文章のどこを読んでいるか、フォーカスを狭めることができます。

・補助具には、様々な種類や色があります。用途によって(音読時、黙読時、テスト時、書き写しの時など)、本人に合ったものを選びましょう。

個別支援(個人に合わせた工夫)

D-3

本人の読むプリント等教材に工夫を加えて、文や語句のまとまりを認識しやすくする

F

個別支援(読みの代替手段)

音声を耳で聞いて学習する

教師の代読

- ・練習問題などを解く際は、問題文を読み上げて聞かせるようにする。
- ・テストの際は、必要に応じて別室受験をして、問題文は読み上げて聞かせる。



デジタル教科書の使用

タブレット端末や PC に、デジタル教科書をダウンロードする。

- ・問題文の音声読み上げをしてもらう
- ・見えづらい文字は随時拡大して読む。

・教室内で音声が流れるが気になる場合は、ワイヤレスイヤホンを使用する。



＜学習者用デジタル教科書＞

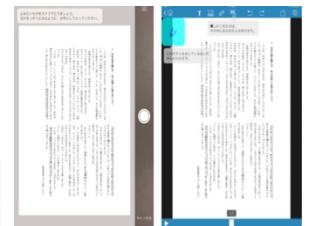


図 文科省 HP より

アプリの使用

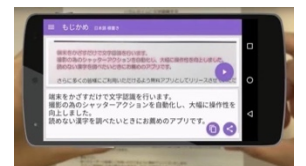
例:タッチ&リード(iOS アプリ for iPad)

- ・印刷物をカメラで撮影し、その中の文字を認識して音声で読み上げる。
- ・日本語、英語対応。
- ・縦書き、横書き対応。
- ・読み上げスピード変更可能。



例:もじかめ(iOS、Android アプリ)

- ・カメラでかざした単語や文章をリアルタイムに文字認識処理を行う。テキストデータとして、読み取ることができる。
 - ・日本語、英語対応。
 - ・縦書き、横書き対応。
- テキストを読み取って、端末の読み上げ機能により音声読み上げをする。



見られる様子(FIAT-LD チェックリストより)	
✓	①心理的負担
17	板書をノートに写したがらない、または写さないことがある
	字を書くことを嫌がる
	文章を書くことを嫌がる



考えられる配慮
クラス全体で指示はするが、本人に書くことを強制しすぎない

以下のチェックリストに1つでも当てはまった場合は、「書きのフローチャート(p. 9)」へ進みましょう

✓	②書くスピード
4	教科によっては授業時間内に板書を写す量がクラスメイトと比べて3分の2程度である
15	表音文字(ひらがな)はスムーズに思い出して書くが、表意文字(漢字)は思い出すのに時間がかかる
19	ノートを確認すると、最後まで書き終えていないことが多い
	字を書くのに時間がかかる
	早く書けるが、雑で読みにくい。また本人も読めていないことがある
	黒板の文字を書き写すのに時間がかかり、最後まで書き終えていないことが多い

✓	③書く様子
2	読みづらい字を書く(字の形や大きさが整っていない、まっすぐに書けていない)
5	いくら丁寧に書いてと伝えても、クラスメイトと比べて読みづらい文字を書く
9	漢字などの板書の写し間違いがクラスメイトと比べて多い
10	教科により、文を読むスピードが異なっているようだ
11	マス目や行に納められない
12	作文などの自由課題は、短文を1, 2文ほどしか書いていない
18	ワークシートやテストでは、回答欄からはみ出して文字を書いていることがほとんどである
20	白紙に文字を書くときは、文字が斜めになっていたり大きさがバラバラになっていたりする
21	書き順を気にしていないようだ
22	筆圧が強すぎる、または弱すぎる

	24	板書では漢字で書いているが、写す際にひらがなに書き替えていることが多い
	26	ノートやテスト, 作文などで, ひらがなばかり使っている
	27	作文や書写では, 句読点を書いていないことが多い
	28	文字を書いているとだんだんと形が崩れる、または書き間違えていく
		定規や分度器・コンパスを使おうとすると動いてしまう

✓	④仮名の誤り	
	3	同じ音の平仮名の書き間違いがクラスメイトと比べて多い(例:「は」と「わ」、「お」と「を」)
	8	形の似ている平仮名の書き間違いがクラスメイトと比べて多い(例:「め」と「ぬ」、「ね」と「わ」)
	23	明らかな書き間違いが頻繁に見られる
		促音「っ」、撥音「ん」、拗音「ゃ」「ゅ」「ょ」「わ」など特殊音節の誤りが多い

✓	⑤漢字の誤り	
	6	同音異義語の書き間違いがクラスメイトに比べて多い
	7	画数の多い感じの誤りがクラスメイトと比べて多い
		形態的に類似した漢字の書き誤りが多い(「雷」を「雪」)
		漢字の細かい部分を間違える

✓	⑥書きの内容理解	
	1	漢字の書き問題は選択肢があれば正答率 80%以上だが、選択肢がない状態だと合格基準に達しない
	13	話し合い活動では、書記や記録をするよりも積極的に話をしていることが多い
	14	口頭で回答する内容と、答案用紙やワークシートに書く内容に明らかな差がある
	16	指名すると正答を答えることができるが、ノートに問題を解いたりテストに回答したりはしないことが多い

書きの支援のフローチャート

項目 a から矢印にしたがってフローチャートを進めていきます。

項目にある手立てで子どもの学習の様子が改善されない場合は、矢印にそって次の項目へ進んでいきます。

(P.〇〇)と書いてある項目には、該当ページに解説があります。

環境調整	
a-1	<ul style="list-style-type: none"> ・ノイズ(音)の排除 ・周辺物の整理等、刺激を減らす ・座席の変更



クラス全体での工夫(教材の工夫)			クラス全体での工夫(授業の進め方)		
b-1	書き込みやすいプリントを選ぶ	<ul style="list-style-type: none"> ・配布するプリントを拡大したものも選べるようにする(B5→A4/B4→A3等に拡大) ・白紙ではなく、マス目や罫線のあるものを準備する。 	c-1	黒板の文字が見づらい、認識しづらい	<ul style="list-style-type: none"> ・黒板の字は大きく記述する ・マス目黒板や方眼の模造紙を使用する ・ホワイトボードでの板書記述
b-2	書く量を制限する	穴埋め形式のプリントを使用する	c-2	書く量が多く、追いつかない	教師が指定したキーワードのみ書かせる



個別支援(個人での工夫)	
d-1	筆記用具の持ち方を見直すための補助具 (P.10へ)
d-2	拡大ルーペを使って、文字を見やすくする
d-3	手元試写により文字を書き写しやすくする (P.11へ)
d-4	自分の書きやすい幅(A罫・B罫・10mm以上)、書きやすい種類(罫線・方眼・ドット線など)を使用する
d-5	書きやすい筆記具(鉛筆・シャーペン(グリップ有り・無し)・ボールペンなど)を使用する
d-6	漢字を想起する負担を減らす、覚えられない漢字を調べる辞書・アプリの活用 (P.11へ)
d-7	字の構造をわかりやすくする (P.11へ)
d-8	書くべき部分に注目する (P.4へ)



個別支援(個別メニューの作成)	
e	FIAT-LD 一対比較法の実施



個別支援(読みの代替手段)	
f	書く以外の方法で学習する、タブレット端末を活用する(P.12へ)

個別支援(個人に合わせた工夫)

d-1

文字を書くときに補助具を使用して、筆記用具の持ち方や力の入れ方を見直す

筆記用具の下についている
グリップを握るようにして持つ



人差し指を
穴に入れて持つ



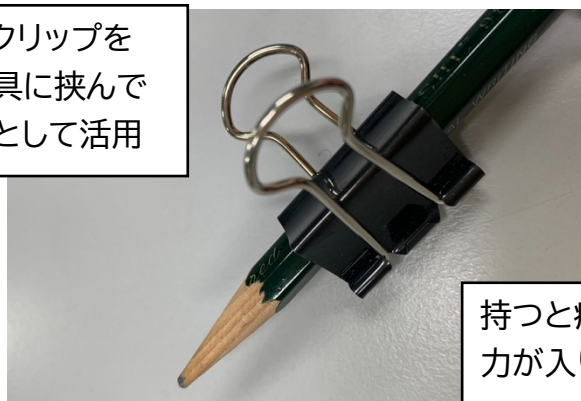
人差し指、中指、
親指の3本の指を
穴に入れて持つ



人差し指、親指
の2本の指を
穴に入れて持つ



ダブルクリップを
筆記用具に挟んで
補助具として活用



持つと痛いときは
力が入りすぎています



字を書くときに、力が入りすぎたり、持ち方が正しくなかったりするお子さんもいます。補助具には、指を入れる本数が違うなど、補助具の形には種類があります。試しながら、本人にあった種類を選びましょう。

個別支援(個人に合わせた工夫)

d-3

文字の見えにくさ、一時記憶の苦手さを補うための手元試写

板書をタブレットで撮影して、手元に置く。
手元の写真を見ながら、ノートに書き写す。

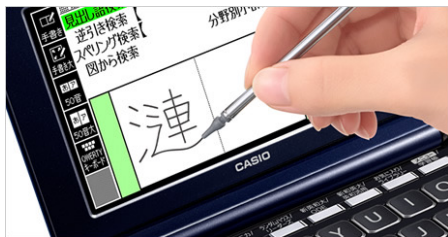


手元から写すことで、
板書の一時記憶の弱さの補填や
文字の細かな部分の確認ができます

d-6

漢字を想起する負担を減らす、覚えられない漢字を調べる辞書・アプリの活用

電子辞書の検索機能



アプリ「筆順辞典」



書く際に漢字を想起するのに時間がかかったり、
漢字を覚えられなかったりする場合にオススメです。

d-7

字の構造を分かりやすくする

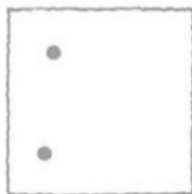
始点ガイドをつける

書き始める位置を明確にする

〈例〉「川」

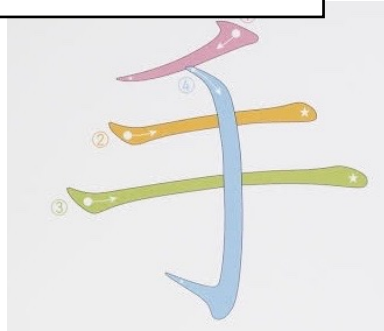


【模範用】



【子ども用】

色で構造分けをする



新しい文字を
学ぶときは、
文字の構造が
分かりやすいように
しましょう。

F

個別支援(書きの代替手段)

板書を撮影して記録する

タブレットで写真撮影



アプリ「無音カメラ」

デジタルカメラで写真撮影



教室で使いやすいか、
撮ったあとに見返しやすいか、
本人の使いやすさに合わせて
選びましょう。

タブレットでのノートテイク

タブレットのノート機能等への記録

- ・キーボード入力
- ・フリック入力
- ・音声入力



理科
 課題「電気の利用 復習」
 電気をつくる
 ↑モーターのじくをまわす
 発電

- ・水力発電 水の力
- ・風力発電 風の力
- ・火力発電 火の力
- ・原子力発電

本人が使いやすい入力の仕方を選びましょう。図などは手書きペンも使えると良いです。

口頭試問による解答

記述解答ではなく、口頭での解答方法をとる。

- ・100問テストなどは、口頭で答えを伝える。
- ・必要に応じて別室で解答する。その場に教師が同席できない時は、ビデオ・録音によって解答提出とする。



長い文章を組み立てるためのアプリの活用

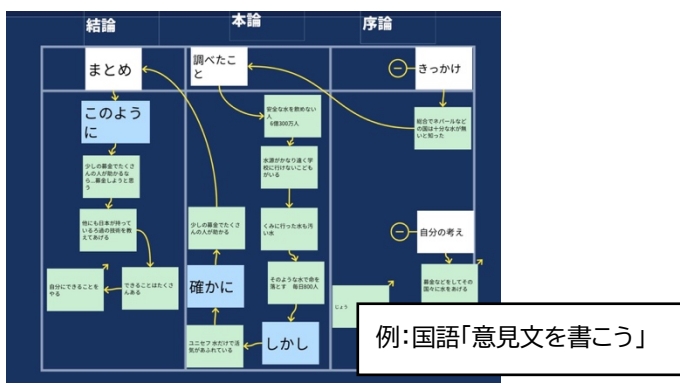
アプリ「ロイロノート」

- ・自分の考えをカードに書き出して、繋げることができる。



カードをつなげるだけ

思考力を育む



思いついたことをたくさん出した後で、それを並び替えることができます。作文を書くとき、なかなか文章が出てこない、何を書いたらいいかわからない、文章の流れの組み立てが難しいときにおすすめです